

入試年度	2025	入試方式	一般	課程	博士後期
研究科	発達教育学	専攻	教育学	領域(分野)	心理学

出題のねらい

入学者受入れの方針に記されたように、筆記試験では、「教育学や心理学に関する高度な専門的知識あるいは研究手法の有無について精査する」ことを目的とするが、専門科目の筆記試験ではさらに以下の各点について評価することを目指す。すなわち、やはり入学者受入れの方針にあるように、独創的な問題を見いだす問題発見能力やそれに対する問題解決能力、研究遂行能力を備えているかどうかの評価である。

(1)は、受験生が自身の研究計画についていかに考え準備しているかを評価することを目的とする。何をなぜ問題として設定しているのか、それに対してどのようにアプローチしようとしているのか、などについて評価を行う。

(2)は、受験生が自身の問題に関係する心理学の研究をどの程度勉強してきたか、理解しているかなどを評価することを目的とした問題である。独創性や特定の領域に関する理解や知識、研究を遂行していく具体的なマネジメントの能力などの評価を目指す。

(3)は、受験生が自身の問題をどれだけしっかり把握しているかを見ると同時に、心理学のより広範囲な理解を問う問題である。関連する心理学などの諸領域を、どれくらい広い範囲で把握して自身の問題意識と関連づけているかを問うとともに、その理解の適切さ、正確さを評価する。

解答・解答例または採点時の評価ポイント

上記の狙いに沿った評価を行う。具体的な評価のポイントは以下の通りである。

(1)では、後期課程の研究計画についてどれだけ準備ができているかを評価する。これには、自身が実際に行う研究の位置付けができているかがまず問われる。自身の研究テーマが学問的な見地からなぜ重要であるのか、なぜ自分がこの研究を行うのかが示されている必要がある。また、自身が用いる研究方法についても、どれだけ理解できているか、どれだけ具体的に考えているかが評価される。博士後期課程の場合、数年間で学位論文を完成させる必要があるため、計画に変更があるとしても、入試の時点で計画に具体性を欠くような解答では、大きく減点されることになる。

(2)は、受験生の研究テーマに即した問題であり、特定の問題について、どれだけ勉強し、先行研究を読み、考えているかが問われる。当該の領域で、どのような問題が扱われ、現在どのような問題に焦点が当てられているか、それに対してどのような研究が行われ、何が明らかにされ、何が未解決であるのかが整理して書かれているかどうか評価される。

(2)が特定の狭い領域に対する勉強や理解、考察などについて聞いているのに対し、(3)は心理学のより広い領域についての知識や理解、および自身の研究とそれらとの関連について問う問題である。自身の問題を心理学や関連の学問の適切な部分に位置付けているか、それらの領域についての知識や理解が十分なものであるか、正確なものであるかが評価される。①自身の研究にごく近い領域との関連付け、②中程度の範囲に広げての関連付け(たとえば、人物同定研究や対人認知研究との関連付け)、③より広い領域との関連付け(たとえば、認知心理学全般における当該研究の位置付け、意義など)にわたった回答が望まれるが、少なくとも②、③のレベルでの関連付けができていることが高評価の要件となる。